

彼方 【かなた】

校長通信
H31.3.22
Vol.35

【みがき合い・支え合う、心豊かでたくましい生徒】
本日をもって平成三十年度のすべての教育課程を修了いたします。

皆さんには、機会あるごとに「どう生きるべきか」を考えてもらえるように話しをしてきました。一年生が入学するにあたって話したのは、「ペイ・フォワード」という映画のお話しを通して、二年生が入学したときは、「アフリカの雨乞いの祈禱師」のお話しを通して、そして卒業式では、「メメント・モリ」の言葉の意味を通して「世の中をよくするために、今できることを考え、行動に移し、決して諦めないで、思いをつなぐことの大切さ」を伝えてきました。

そして平成最後の年度の修了式のテーマは、「言霊」です。考えるのも伝えるのも「言葉」です。今日はその「言葉」について一緒に考えたいと思います。今から話すことを何も考えないようにして聴いてください。「森の中の小道を歩いていると、突然藪の中からパオーンという鳴き声と共に象の長い鼻がニユツと突き出してきたのです。」今の話を聴いて、頭の中に鼻の長い象の姿が浮かんだのではないですか？このように「言葉」は、無意識に脳に働きかけて、イメージを作ってしまうのです。

校長室の机の上にこの日めくりカレンダーが置いてあります。その中にこんな「言葉」が書かれています。「たった一言が人の心を傷つける。たった一言が人の心をあたたためる」また、最近終わってしま

った「3年A組」というドラマの中で柘先生は、生徒に「お前の一言が、何にも考えずに発したお前の一言が、誰かを死に追いやってしまうことだってあるんだ！もつと考える！」と話し、SNSで心ない「言葉」を発信している人達に訴えかけていました。



言葉は、「言霊」です。力を持っています。私は、二十歳までに一日二十回、二十年間で十四万六千回のネガティブな傷つく言葉を耳にして生活しています。そのために多くの人の心の中に、「そんな無理」「どうせ自分なんかにできるわけない」「やるだけ無駄」というメンタルブロックという「心の壁」が作られます。それによって多くのチャンスが失ってしまふこともあります。ただし、ネガティブな感情を口に出すことも、時には自分を守るために必要になってくることもあります。

脳は複雑ですが、だまされやすいと言われています。ネガティブな言葉でメンタルブロックが作られるとすれば、逆にその壁を打ち破ることもできます。それには、ポジティブな前向きな言葉を意識して使うことです。「おはよう」「ありがとう」「うれしい」「楽しい」「ついでに」等々です。ゴルフで有名なタイガーウッズ選手は、相手のこのパットが決まれば、自分が負けてしまうという場面でも必ず口にする言葉があるそうです。それは「入れ！入れ！入れ！」という言葉です。「なぜですか？」と聞くと、「その

方が自分のパットも入りやすくなるからです。逆に。『入るな！はずせ！』と思うと、なぜか自分のパットも入らなくなってしまうのです。」と言っています。「本当かな」と疑ってしまうこともあります。生卵や食パンに毎日「ありがとう・大好き・うれしい」と声をかけ続けた場合と、逆に「面倒くさい、うざい、うつとうしい」と声をかけ続けた場合のものを比べると、明らかに前者の方が長持ちしたという実験結果もあります。実際に、幼稚園の子ども達の「ありがとう」という声を工場内に繰り返し流しているお菓子屋さんもあるそうです。また、「勉強ができるようになる！」というような未来形ではなく、「勉強、面白い！楽しい！伸びてる！」というように、今がそうであるかのように自分に語りかけると学力が上がってきます。もしネガティブな言葉を吐き出したときは、「なんちゃって！」と最後につけちゃえば脳はだまされます。昔から「言霊」と言われているのは、こういうことが何となくわかっていたのだと思います。どんなときも前向きに捉え、十七の顔の筋肉で「笑顔」を作る方が、四十七もの筋肉を使って「しかめっ面」を作って、毒のある嫌な言葉を吐くより、ずっと幸せに生きられるのです。

皆さんが進級し、四月に新しく後輩を迎え、白山中を「こんにちは」「ありがとう」「うれしい」「楽しい」の言葉で溢れさせ、笑顔満載の学校にできるよう、「みがき合い・支え合う、心豊かでたくましく生きる生徒」をめざして生活して欲しいと思います。平成最後の年度に見せた皆さんの活躍を本当に誇りに思います。「ありがとうございました！」